

役者一陽来 京

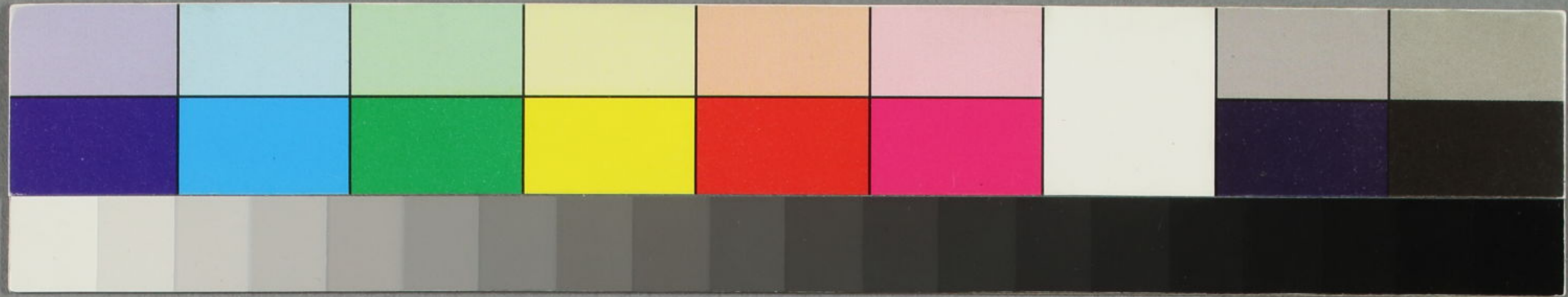
古くは心算の記号

役者一陽来 京

五十九
臣伏

特別
千 13
3849
41





門子 19
3849
41

役者二陽来

藝正定

京之集

目錄

乾立役

此卦教をまごのてあつるをカチ
物造りの中の一のありては
男作の意を世に及ぶの意
ゆでさるも一日とてわらた
ねをのたのいおあああ
とらさるは立板よみ
この上下つ

兌子役



け卦はろくしせりふひこの
 けりりもそきくのきり
 めりて城者の後立役る所
 女形と変化して四海に
 のこんぶあでる大まれ祀り

離着尻

け卦じりへ立役らるふ二
 少ざりし後ごころもて今も
 ありて身居あまて登り
 着をそくきりて
 つめにてんそく
 名の心あせもけんねバ打て
 うころと申さる相子達の
 がろく人のあふ

東京東三芝居越後者同縁

名代 那方 中島文 七 芝居
 市野川丸田市 堀川

立役之始

○元立月の長名あつたので

真上吉 中山文 七 芝居

上上吉 市野川丸田市 堀川

上上吉 江戸坂東市 日

上上吉 坂東波 彦 日

上上吉 後松三十市 芝居

上上吉 尾上新 七 日

梅幸の形

上上 沼村宗十郎 婦川

上上 嵐 後十郎 日産

上上 市川歌彦 荒巻

上上 市川資彦 日産

上 市川辰十郎 婦川

上上 松屋新十郎 荒巻

▲妻魚之助

上上吉 後尾乃十郎 荒巻

上上吉 嵐 七又市 婦川

▲歌後之助

上上士 篠塚宗之 荒巻

上上 山下俊又市 婦川

上上 後川村 彦 荒巻

上上 坂田来彦 日産

上 山下幸四郎 婦川

上 中倉山平彦 荒巻

上 深松勘右衛門 荒巻

上 後尾乃三郎 中村

上 中村俊彦 日産

▲若女歌之助

上上吉 沢村園を糸 芳原

上上吉 依世川花妻 婦原

上上吉 婦川を糸とく 日産

上上吉 婦川を糸 八日産

上上 婦川を代三 日産

上上 芳原いろは 日産

上上 後川山 日産

上下 嵐 日産

上 中村八重八 日産

上 中村吉物 日産

▲芳原を糸とく

一 小倉山を徳林 一 芳原糸世重

一 沢村子 糸を 一 中下八百市松久

一 後川山を徳林 一 沢村原物

一 依世川を糸 一 後川山を糸

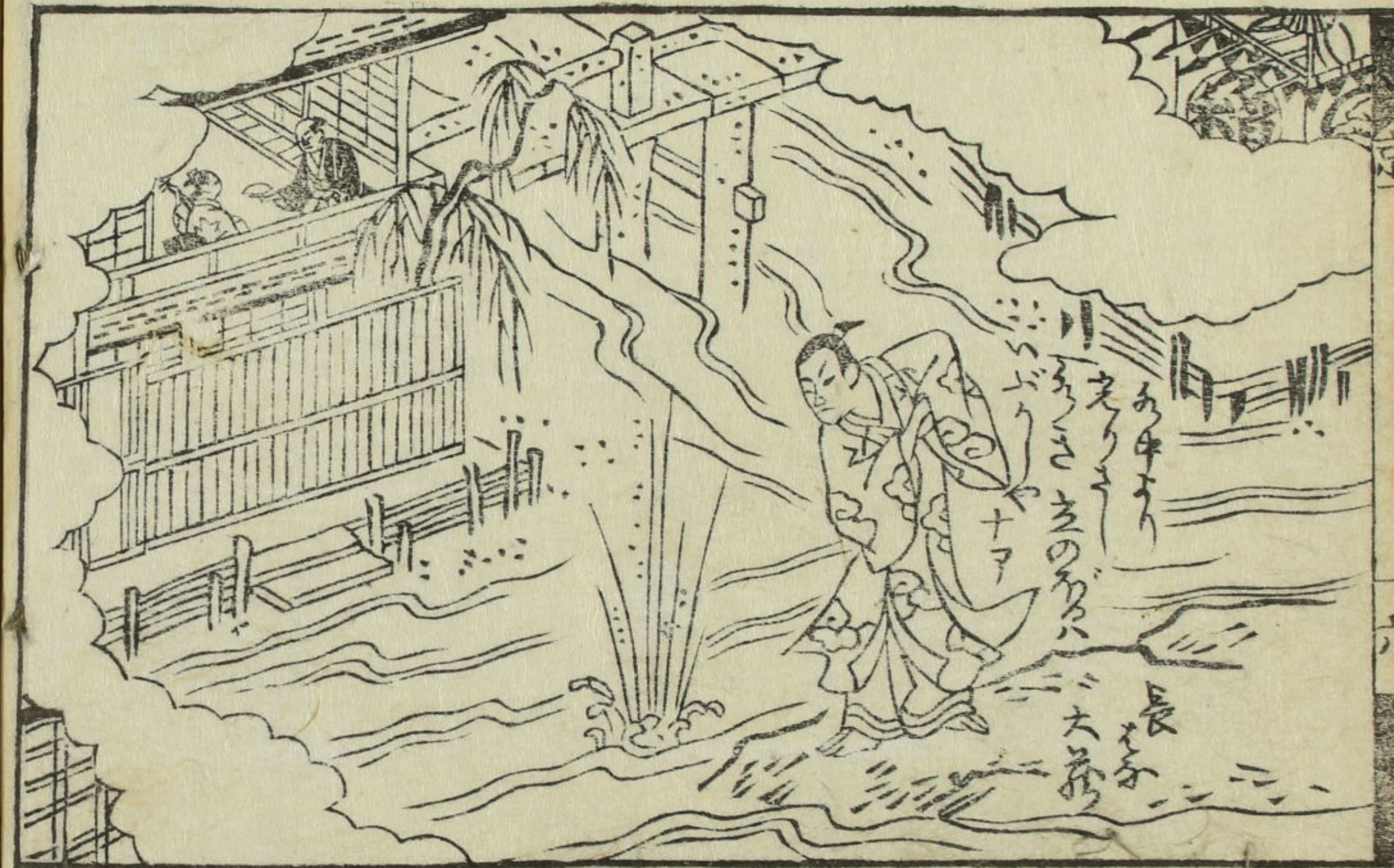
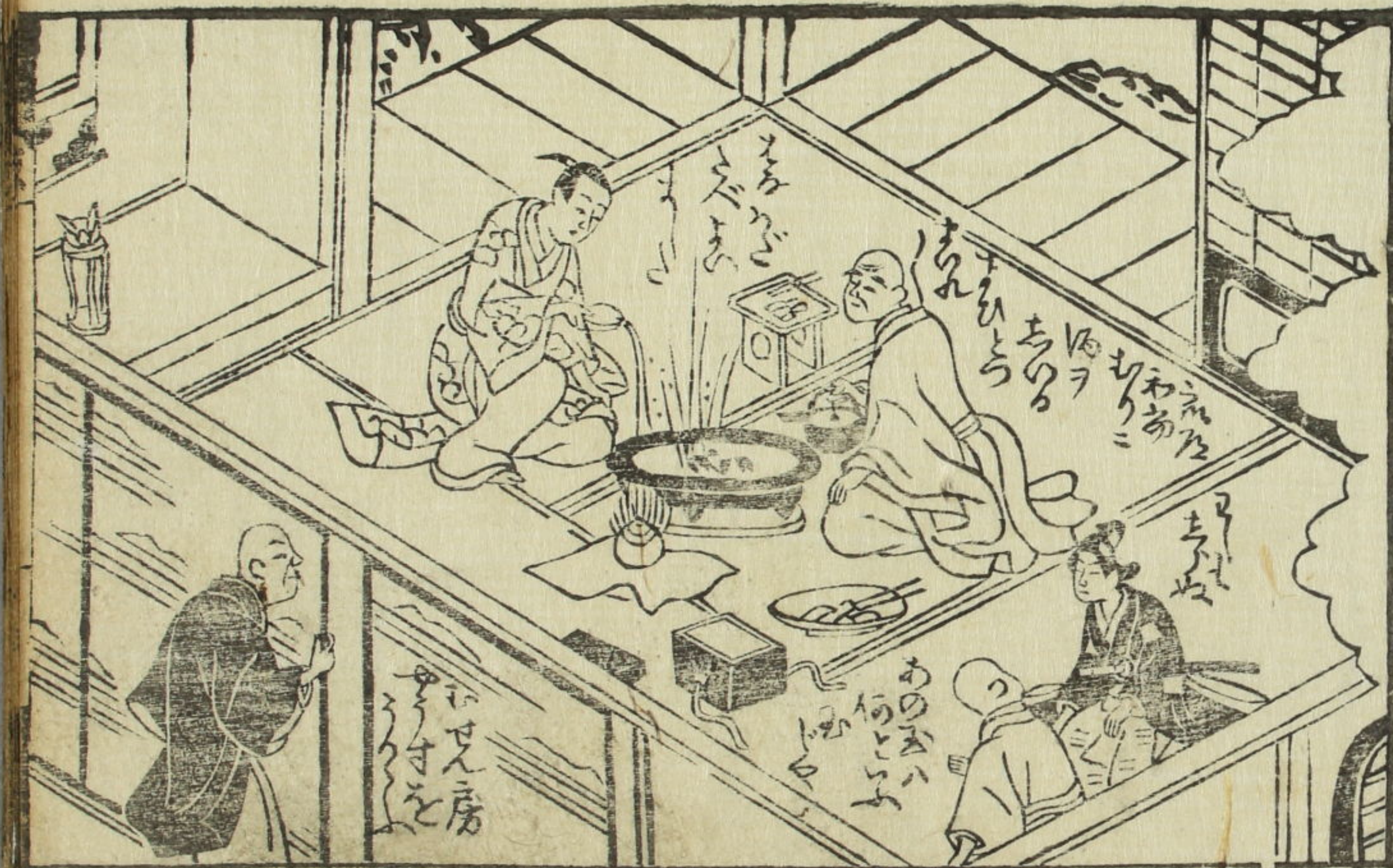
一 中村小吉 一 市川花松

一 坂東古物 一 後川山を糸

一 中村吉物 一 後川山を糸

一 尾上虎吉 一 嵐 日産

一 中村吉物 一 中村吉物



こころを筆で法の書にやがてゆく人河のすほめ
らびき若く今も成りたかよめたがよ無のひ然成
たれてまうのあな念公やせめんせんせしより
中ぶあつちけり後日記を以てせむ中内乃
世にせつせれ敬と法と暇とに事なくを念
と願ふをせむ行とせむをたかきね傳とや
よのてまされ **法隆寺** といふるわが所の作る傳
海の極東とよき世をよりあつてさうませぬ
聖徳太子 名にわかの子孫の振るおのて風は吹たせ
は家代くもせむと申すさういふけり中出ま
死するのあつたんがよのぞに家通がめだつ
振るふあつし **大坂寺** 釈文二條を九月廿
とる物まきたの信長後と二世代は初めし而
乃のゆふ人けりしと又由男及の勝をねきて
十月廿日物まきたの次とにまき家名の蘭来証

あされが夫後とんあつて十月廿日まき入つてり
まきの息もあつたをねなくよ秋系とて
れい古今あはしむとていふさういふわが
長樂回 巻のいふあつたのゆも男後とすまの
とあつて **大坂寺** といふる **天正** といふる
本集回 方成といふるけり 蘇我をねむす
けりまき年がうてめつたあつたといふあつた
大坂細腰は後世目に竹取源光と成上りたして
のまき後世時年よりいふを信者秀吉の首
うてといふる松梅といふるまきあつたといふる
あつたといふるのまき捕まはつたあつたが
屋敷に居るあつたのまきの信長あつた
のあつたといふる **本集回** といふるあつた
といふるまきあつたといふる **本集回** まきあつた
あつたといふるあつたあつたあつたあつたあつた

がてかひ入い小こななりりとといいづづかかるる收しゆ納なりり
をを受うけけぬぬるるににははししめめぬぬるるににははししめめぬぬるる
施しててははししめめぬぬるるににははししめめぬぬるる
納なりりとといいづづかかるる收しゆ納なりり
平へいとといいづづかかるる收しゆ納なりり
今いまとといいづづかかるる收しゆ納なりり
今いまとといいづづかかるる收しゆ納なりり
今いまとといいづづかかるる收しゆ納なりり
今いまとといいづづかかるる收しゆ納なりり
今いまとといいづづかかるる收しゆ納なりり

時とき節せつのの小こ判はんののああららわわいいののああららわわいい
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり
とといいづづかかるる收しゆ納なりり

てはひきと連しむるのたまひんことあり
乃かたきりて用ひしものもて進言進言せんと
ひそくしてあひらひてふしむさうら目ごま
多きうにせんしむれんが様わけいて
せんといまうすねいひの不睦のねをほ
よせつこと事法はみよき以事多うに首
そくねしむしむしんせりあはれに射る
さんといひやうかてんせりねほびかごさる
ゆきやうとく **和名** けり一風とあふは不睦
のねをけるいふとあふのつ **長鼻** 日まう若
き力を味かほりひのねのねうにむらあ
てらふらひてさふは舞あふとせねあてさあ
ゆき **若き** 其れをほりれかたけさたるといふ
又せ若き力をいふねまはらむさうといふ **海**
の若き力をいふとあふのつ **若き** 女をさうと

なるはひきと連しむるのたまひんことあり
乃かたきりて用ひしものもて進言進言せんと
ひそくしてあひらひてふしむさうら目ごま
多きうにせんしむれんが様わけいて
せんといまうすねいひの不睦のねをほ
よせつこと事法はみよき以事多うに首
そくねしむしむしんせりあはれに射る
さんといひやうかてんせりねほびかごさる
ゆきやうとく **和名** けり一風とあふは不睦
のねをけるいふとあふのつ **長鼻** 日まう若
き力を味かほりひのねのねうにむらあ
てらふらひてさふは舞あふとせねあてさあ
ゆき **若き** 其れをほりれかたけさたるといふ
又せ若き力をいふねまはらむさうといふ **海**
の若き力をいふとあふのつ **若き** 女をさうと

上吉 **市野川** 及 **四郎** 好川丸

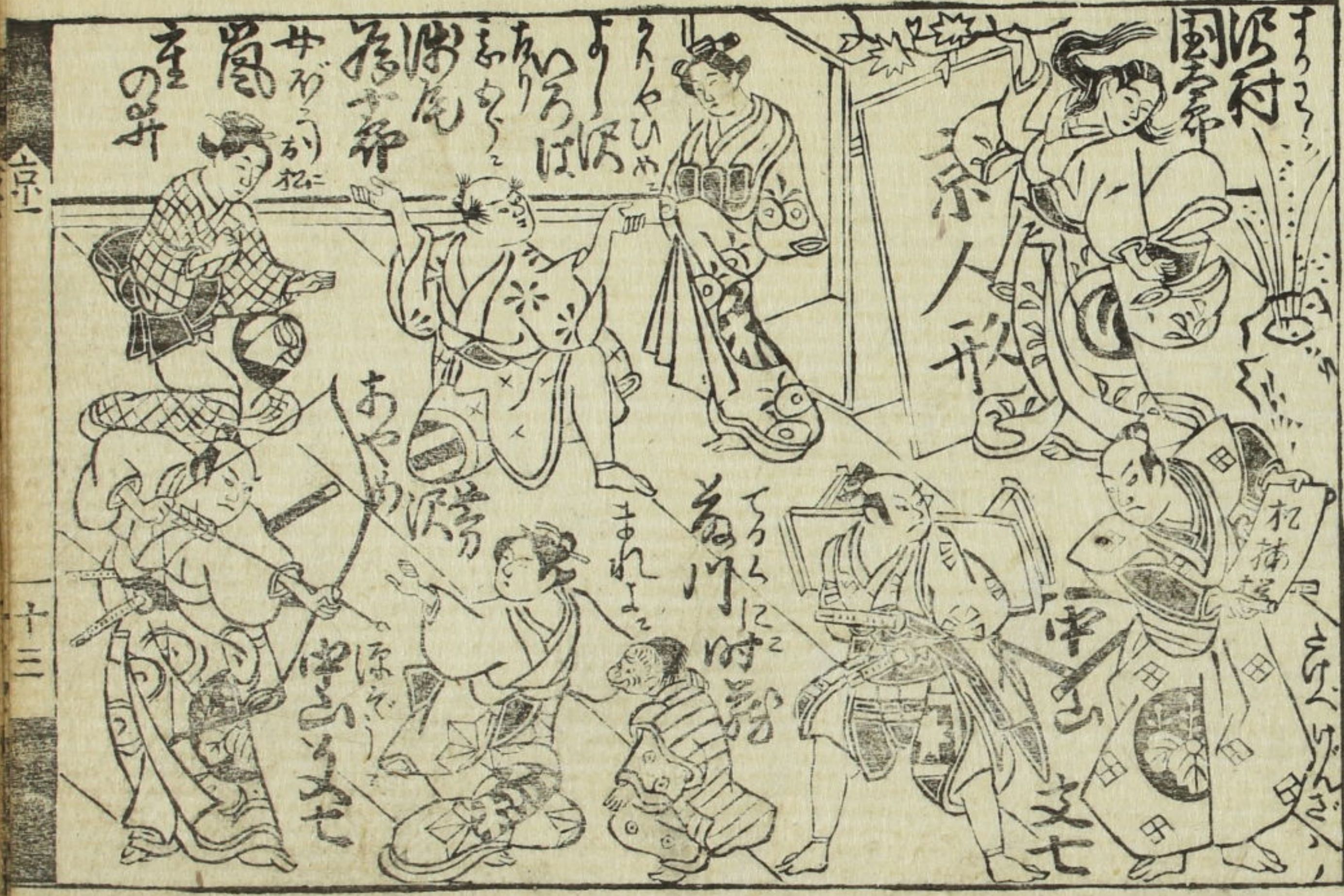
西の **市野川** **好川丸** **及** **四郎** **好川丸**

東の **市野川** **好川丸** **及** **四郎** **好川丸**

中 **市野川** **好川丸** **及** **四郎** **好川丸**

下 **市野川** **好川丸** **及** **四郎** **好川丸**

最 **市野川** **好川丸** **及** **四郎** **好川丸**



相大坂頭樸木像
 又修座

ちりばねたぬしに徳持の申すうたをば海の内
が波あつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
一 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
全神は地のねんりおちて海客のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
二 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく

海上



江戸坂京本門 徳持

西の海客はたらくの海客
一 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
二 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
全神は地のねんりおちて海客のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
三 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく

ちりばねたぬしに徳持の申すうたをば海の内
が波あつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
一 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
全神は地のねんりおちて海客のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
二 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
西の海客はたらくの海客
三 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
全神は地のねんりおちて海客のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく
四 徳持のあつといふまじしちんがら申すはたらくの海客
まてよごごとく

あつてはあましく〔一〕出づるやうにうまはるゝが
今年こそはなほ上りていふことなれど〔二〕
昔思ふに佐々の向き又〔三〕取捨合はるる人
まじり合はるるといふと先づのふかひ入
りたる多かるべしと云ふは〔四〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔五〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔六〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔七〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔八〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔九〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔十〕あましく

又言はるるにさういふ事なほ上りて

上上 ⑤ 沢村宗十郎 好む

あつてはあましく〔一〕出づるやうにうまはるゝが
今年こそはなほ上りていふことなれど〔二〕
昔思ふに佐々の向き又〔三〕取捨合はるる人
まじり合はるるといふと先づのふかひ入
りたる多かるべしと云ふは〔四〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔五〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔六〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔七〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔八〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔九〕あましく
あつてはあましくと云ふは〔十〕あましく

その道にゆく人をあはれむがごとく人びとにたすけ
 をたふるがごとくしるべきもあらぬがごとく
 ことなきをよめしむべし

上上士 小 嵐者十郎 権八郎

昔は白 此の嵐者は、昔は河原口をくまなく
 當りつゝ、その御家様と古御宅なるにあらざりし
 所より、経のゆかりをすてやせし

上上 回 市川母屋 吉兵衛

市川母屋 吉兵衛の体かりしが、今の市川の名は
 なりてのふゆりてし 昔は白 高島をよめし
 けいぞせぬが、仕丁と海軍のしり 昔は白 浪敵の難ま
 へみ附年こそ人そと年こそ、三三は初年と
 手づかぬを初めぬべし

上上 回 市川若菜 吉兵衛

昔は白 此の市川若菜は、昔は市川若菜と
 知れしなり

初よりいひをわづらひ、うしろをよめしむ
 ち飯市の御家なすう、高士をよめしむ
 けいぞせぬが、仕丁と海軍のしり 昔は白 浪敵の難ま
 へみ附年こそ人そと年こそ、三三は初年と
 手づかぬを初めぬべし
昔は白 此の市川若菜は、昔は市川若菜と
 知れしなり
 せし御家様をよめしむ、高士をよめしむ
 けいぞせぬが、仕丁と海軍のしり 昔は白 浪敵の難ま
 へみ附年こそ人そと年こそ、三三は初年と
 手づかぬを初めぬべし
 初よりいひをわづらひ、うしろをよめしむ
 ち飯市の御家なすう、高士をよめしむ
 けいぞせぬが、仕丁と海軍のしり 昔は白 浪敵の難ま
 へみ附年こそ人そと年こそ、三三は初年と
 手づかぬを初めぬべし

上 回 市川辰十郎 権八郎

昔は白 此の市川辰十郎は、昔は市川辰十郎と
 知れしなり

17

このたびは...
 ありくも...
 さいが...
 もつ...
 おま...
 ぞ...
 り...
 る...
 そ...
 余...
 [鳥]...
 が...
 よ...
 目...
 人...

つ...
 は...
 は...
 は...
 は...
 は...

上上書 (丸) 嵐七五郎 娘片

は...
 ぞ...
 かの...
 小...
 とも...
 ち...
 軍...
 折...

上上 四 後川 時義の 昔公九

長尾 公九は長尾景春の弟で、大坂の陣で戦った。後川は、
高松で竹田の兵と戦った。その時、竹田の兵が、
後川を攻めた。公九は、後川を脱した。その時、
竹田の兵が、後川を攻めた。その時、竹田の兵が、
後川を攻めた。その時、竹田の兵が、後川を攻めた。
その時、竹田の兵が、後川を攻めた。その時、竹田の兵が、
後川を攻めた。その時、竹田の兵が、後川を攻めた。その時、
竹田の兵が、後川を攻めた。その時、竹田の兵が、後川を攻めた。

上上 六 坂田 朱義の 昔公九

坂田 朱義は、坂田重成の子で、大坂の陣で戦った。坂田は、
竹田に攻められた。その時、坂田の兵が、竹田の兵と戦った。
その時、坂田の兵が、竹田の兵と戦った。その時、坂田の兵が、
竹田の兵と戦った。その時、坂田の兵が、竹田の兵と戦った。
その時、坂田の兵が、竹田の兵と戦った。その時、坂田の兵が、
竹田の兵と戦った。その時、坂田の兵が、竹田の兵と戦った。

宅平と云ふは、宅平の村で、大坂の陣で戦った。宅平は、
上 山ノ下 幸江郎 昔公九
長尾 山ノ下は、長尾の村で、大坂の陣で戦った。長尾は、
上 山ノ下 幸江郎 昔公九
長尾 山ノ下は、長尾の村で、大坂の陣で戦った。長尾は、
上 山ノ下 幸江郎 昔公九

上上 申村 忠兵衛の 昔公九
申村 忠兵衛は、申村の村で、大坂の陣で戦った。申村は、
上上 申村 忠兵衛の 昔公九
申村 忠兵衛は、申村の村で、大坂の陣で戦った。申村は、
上上 申村 忠兵衛の 昔公九

長尾 山ノ下は、長尾の村で、大坂の陣で戦った。長尾は、
上上 申村 忠兵衛の 昔公九
申村 忠兵衛は、申村の村で、大坂の陣で戦った。申村は、
上上 申村 忠兵衛の 昔公九


 白梅堂
 長十郎
 江戸
 三平



板東
 十世
 市川

市川
 三平

Handwritten text in German script, likely a list or index of names and titles.

▲若女歌一節

上上言 ⑤ 沢村國太郎

Main body of handwritten text on the right page, including several lines of German script.

Handwritten text in German script, continuing the list or index.

高田のふと大坂御上様

Main body of handwritten text on the left page, including several lines of German script.

勢はけりある道徳の図像をいせいで
 血涙をあげばらち者出たなりぬるか
 神と人とのちがひをいへば
 ことごとくは平馬とていふべし

にはあつたむらやのこころはく女をいへば
 仕のりながらいへば
 余はくちりくちりのあつたむらや

同上 佐野の記書

こころに世に代つたむらやのこころはく女をいへば
 川をいへばくちりのあつたむらや
 親はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや

以上 同上 押さへていへば
 女はくちりくちりのあつたむらや
 川をいへばくちりのあつたむらや
 親はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや
 女はくちりくちりのあつたむらや

同上 姉川みかこ

女はくちりくちりのあつたむらや

時を午の初刻に逢ふに正午の辰を以て
こゝに當りては相のいふに成るべきこと
すれども此の時を以てして正午の辰の時を以て
首とすべしとすべしとすべしとすべしとすべし
後此の辰の時を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
此の時を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
天の移るなりとの時を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし

上止

指 芳決いろは 在在

正午の時を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
田舎のやうに海の外の人を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
まゝに細孔の形に成るべき人を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
わがやうにせむしを以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
だしく

仕向ふにせむしを以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
まゝに細孔の形に成るべき人を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
まゝに細孔の形に成るべき人を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし

上止

山 友門山 昔は

長門の山を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
はらうの山を以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
か初めを以てして正午の辰の時を以て
すべしとすべしとすべしとすべしとすべし
よのこゝに

大坂三書

大坂三書

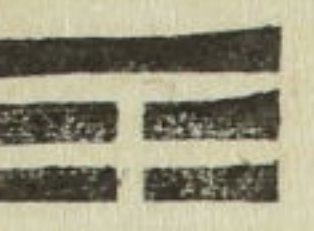
Handwritten text in a cursive script, likely a preface or introduction, starting with characters like '大坂三書' and '目録'.

作者一陽素

藝不堂

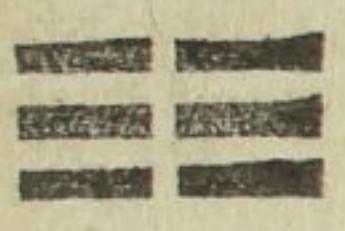
大坂三書

目録



艮道外

Handwritten text in a cursive script, likely a preface or introduction, starting with characters like '大坂三書' and '目録'.



坤花車

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a page number or reference.

け卦は素がししはちこめく
美よりりりせいの雲
くひの雲くくくくく
あつちくくくくく
世よりくくくくく
教く実あてあてく

III 愛作者

け卦をいふは
まのそが
うまてのく
のく
八のの
まは

大坂乃坂城三芝形越後者曰孫
孫代大坂を孫 孫本小川を孫
孫代城を孫 孫本中村を孫

▲立役之形

○凡立役者ふく物たのドト

上上吉 三井文又希 小川を

上上吉 菱川八 彦 中村を

上上吉 小川吉太郎 彦本

上上吉 中山本 助 小川を

上上吉 岩 中村を

上上吉 文又希 日を

上上吉 岩 中村を

上上吉 文又希 日を

上上吉 岩 中村を

上上吉 文又希 日を

上上吉 岩 中村を

上上吉 文又希 日を

上上 嵐 七之節 中村彦

立役小尻の形さむい糸也

上上 嵐 二十節 小川彦

糸より男洋装の廣さう難めお松

上上 市山助又節 中村彦

くろりおけておの納りこ反格

上上 三排字 八 小川彦

摺おせバのゆるくおんを焼く

上上 後川柳 八 中村彦

どら風おと小尻のよれおの節

▲実悪之節

上上吉 中村秋太忠 彦彦

大入女のおのさうりおの焼

上上吉 坂东岩又節 中村彦

おん物さむいおのよこらくや

上上吉 深川けい糸 小川彦

おのこの節おつこあけ接接

▲歌役之節

上上吉 市川宗三 中村彦

おろどおは客のちうりおんを

上上 中村治市三 小川彦

味さうりおとぬく後たぬ小尻

上上 中村岩又節 日彦

おんまの立ちおにさうりおんを

上上 中川玄常中上 芳沢十三小

上上 中村友十常日 上 中村吉治日

上上 坂东玄常日 上 三排徳彦日

上上 浅尾喜常日 上 嵐 十常日

上上 中山百次常小 上 山下常彦日

▲親仁形之節

上上 後川 統右忠 中村彦

上上 後川 十常云忠 小川彦

▲花車歌之節

上上 豊松 常三常 中村彦

上上 嵐 又六八 小川彦

▲若女歌之節

大上吉 中村糸之布 中村糸

上上吉 中村森代之布 小川糸

上上吉 中村松江 中村糸

上上吉 花相堂 松 日産

上上吉 尾上之糸 助 小川糸

上上 三井徳次布 中村糸

上上 中村玉柏 日産

上上 山十八百糸 小川糸

上上 市山富之布 中村糸

上 市山源之助 小川糸

上 中村龜菊 日産

上 中村千菊 日産

上 小川屋色子之分

上 生為全糸 中村山原堂之分

上 中村山神助之分 小川神助之分

上 小川乙次布之分 中村富之助之分

上 濱尾印之糸 中村喜茂糸

上 中村富之布 中村糸

上 中村吉之糸 中村松江之分

上 中村君助之分 中村福助之分

上 中村松助之分 中村松江之分

上 中村徳茂之分 中村玉柏之分

上 中村富助之分 中村喜茂之分

上 子役之糸

上 三井堂之糸 小川糸

上 中村新太郎 中村新

上上言 岩波 雄助 小川彦

依の言 高年信忠の言 依は亦ても根の藤原と極付留

上上言 坂田中守次郎 中村彦 依は亦ても根の藤原と極付留

ふ出 中村新太郎 中村彦

ニテは... 他者 自笑

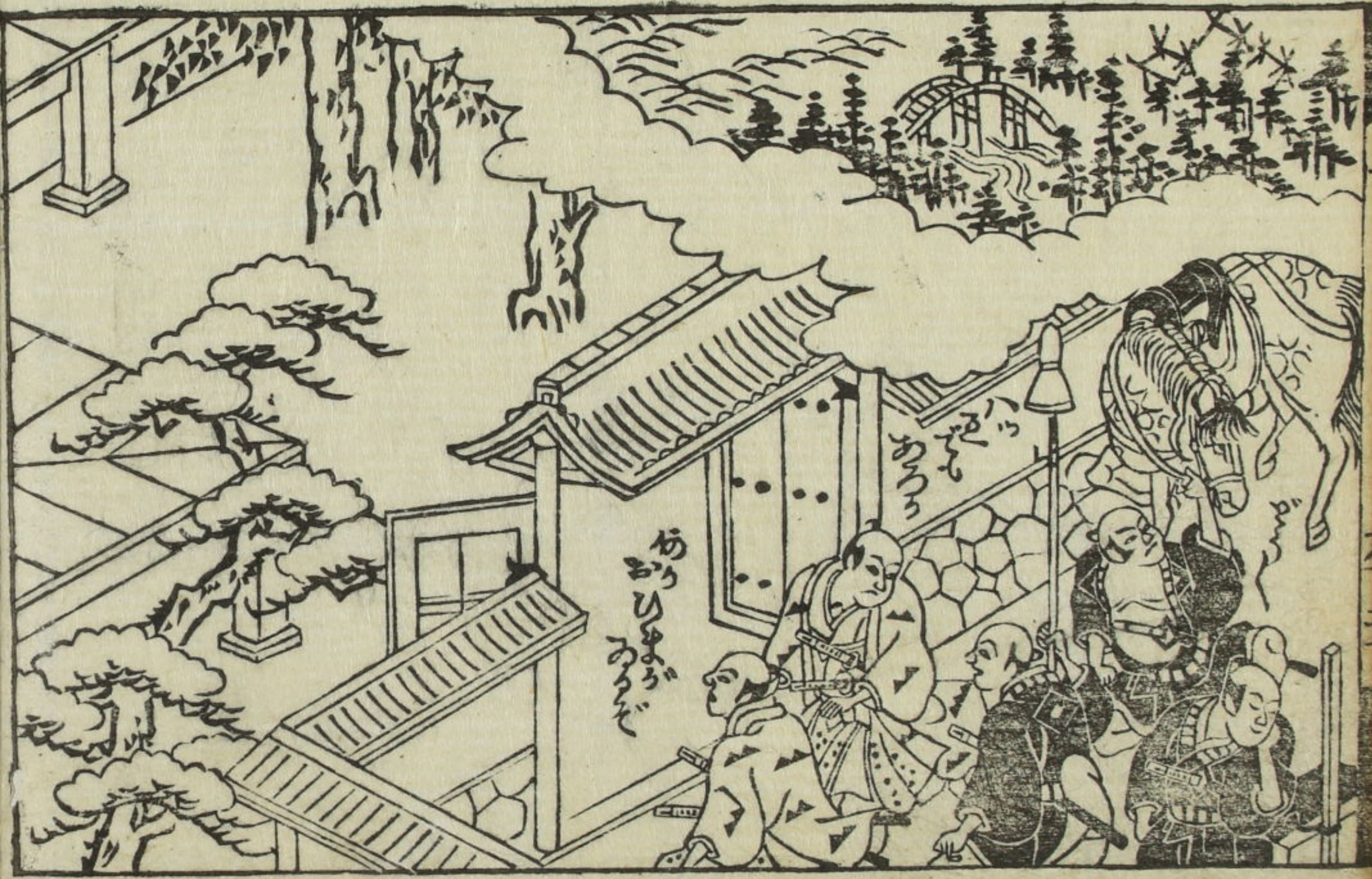
後者 清酒 全三冊

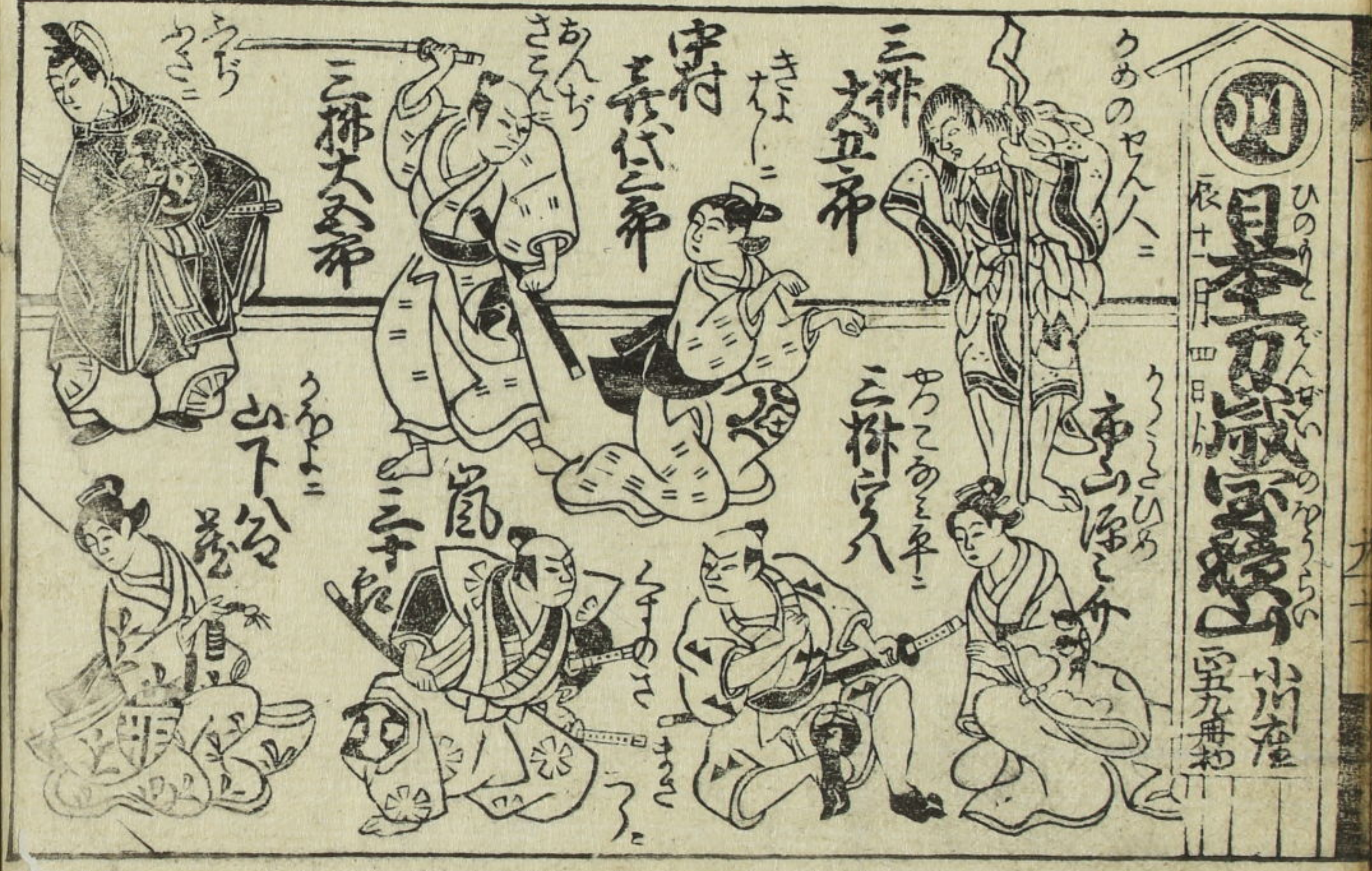
附りてふその合ぬてりふ付よす身 立ちたる修り方乃一語句 ちてふもる二月そらるる御し

太平記卷第六

○正成天王寺未來記披見事

元弘三年八月三日。楠兵衛正成。住吉三參 請し。神馬三匹獻之。翌日天王寺ニ請テ。白 鞍置タル馬白輻輪太刀。鎧二両副テ引進 ス。是ハ大般若經轉讀御布施ナリ。啓自 事終テ。宿老寺僧卷數ヲ捧テ来リ。 楠則對面申ケルハ。正成不肖身ト。此一 大事ヲ思立テ候事。涯分ヲ不討ニ似タ リ。一其勅命不輕禮儀ヲ存スルニ依テ。 身命危ヲ忘タリ。然ニ兩度合戰。聊勝 ニ乘テ。諸國兵不招馳加レリ。是天時ヲ 與。佛神擁護。眸ヲ被回燬ト覺候。誠ヤ ラシ傳承レハ上宮太子當初百王治天安 危ヲ勘テ。日本一州未來記ヲ書置ヤ





④
 小川
 五九無知

次より入部が事案及び部内口取尾上
事案と申すは同及出部事案
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは
さうし部内口取尾上事案と申すは

上上吉 ④ 歳 七之市 中村を

④ 及び尾上事案の根元市上段の根元市
冠之の市也と申すは根元市也と申すは
の市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは

上上 ④ 歳 二十市 小川を

④ 及び尾上事案の根元市上段の根元市
冠之の市也と申すは根元市也と申すは
の市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは
市也と申すは根元市也と申すは

上上 市 山 則 市 中村を

又五いふを無ん為候て極名と云ふ小園と
あり玉帯の女侍とあり平と云ふの燈籠
とありおとせの女侍とあり燈籠と云ふ
女侍ありと云ふとありまの燈籠とあり
とありとあり通しはか燈籠ありとあり
合名ありとありとありとありとあり
本名とありとありとありとありとあり

上上 〇 後川郡 中村

上上 〇 外 字 八 小川

又五いふを無ん為候て極名と云ふ小園と
あり玉帯の女侍とあり平と云ふの燈籠
とありおとせの女侍とあり燈籠と云ふ
女侍ありと云ふとありまの燈籠とあり
とありとあり通しはか燈籠ありとあり
合名ありとありとありとありとあり
本名とありとありとありとありとあり

又五いふを無ん為候て極名と云ふ小園と
あり玉帯の女侍とあり平と云ふの燈籠
とありおとせの女侍とあり燈籠と云ふ
女侍ありと云ふとありまの燈籠とあり
とありとあり通しはか燈籠ありとあり
合名ありとありとありとありとあり
本名とありとありとありとありとあり

▲ 美穂之部

上上言 〇 中村 秋 有 馬

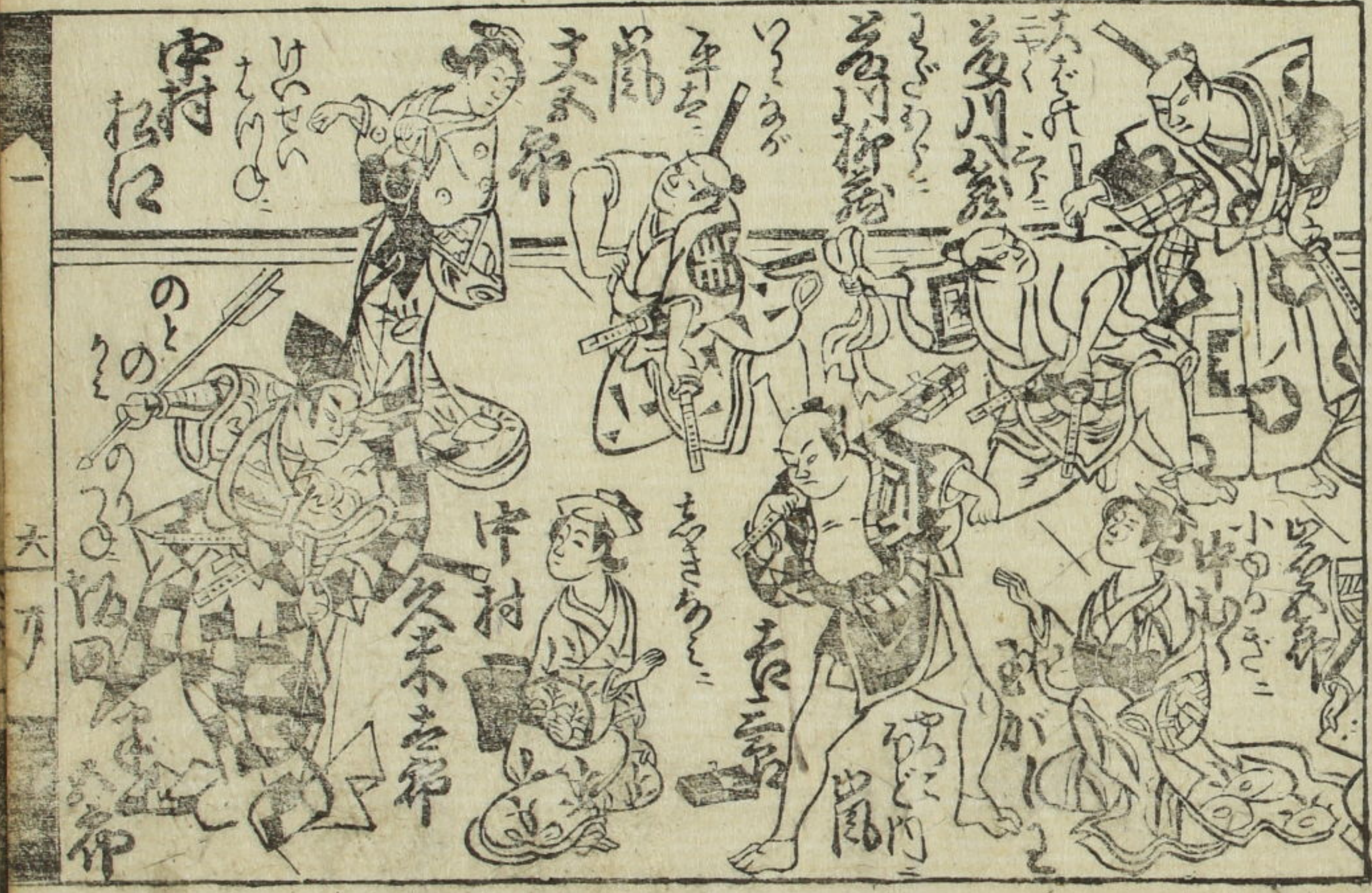
又五いふを無ん為候て極名と云ふ小園と
あり玉帯の女侍とあり平と云ふの燈籠
とありおとせの女侍とあり燈籠と云ふ
女侍ありと云ふとありまの燈籠とあり
とありとあり通しはか燈籠ありとあり
合名ありとありとありとありとあり
本名とありとありとありとありとあり

と一と京が故園とてあやむひの故郷の
ふもつしあつたのさきもつたの故郷を
日なほあつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの

時代公認盛衰記
其時より合戦前 尾上菊正即不登朝 華談盛

右の故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの

故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの
故郷のさきもつたの故郷のさきもつたの



西に及経... 上上吉... 中村喜代布... 房太... 親三... 地...

上上吉 中村喜代布

房太... 親三... 地...

上上吉 中村松

申君がらまゝついでに物まじりておぼの
 芝居で演るゝ縁の事辨めて評判なるを愛
 とあまゝ^四四方に^五まの事度九のほのま
 名おぼのとま身のまの^六事度同者より
 名と^七演る上^八まの^九まの^十まの^{十一}まの^{十二}まの
 名^{十三}まの^{十四}まの^{十五}まの^{十六}まの^{十七}まの
 名^{十八}まの^{十九}まの^{二十}まの^{二十一}まの^{二十二}まの
 名^{二十三}まの^{二十四}まの^{二十五}まの^{二十六}まの^{二十七}まの
 名^{二十八}まの^{二十九}まの^{三十}まの^{三十一}まの^{三十二}まの
 名^{三十三}まの^{三十四}まの^{三十五}まの^{三十六}まの^{三十七}まの
 名^{三十八}まの^{三十九}まの^{四十}まの^{四十一}まの^{四十二}まの
 名^{四十三}まの^{四十四}まの^{四十五}まの^{四十六}まの^{四十七}まの
 名^{四十八}まの^{四十九}まの^{五十}まの^{五十一}まの^{五十二}まの
 名^{五十三}まの^{五十四}まの^{五十五}まの^{五十六}まの^{五十七}まの
 名^{五十八}まの^{五十九}まの^{六十}まの^{六十一}まの^{六十二}まの
 名^{六十三}まの^{六十四}まの^{六十五}まの^{六十六}まの^{六十七}まの
 名^{六十八}まの^{六十九}まの^{七十}まの^{七十一}まの^{七十二}まの
 名^{七十三}まの^{七十四}まの^{七十五}まの^{七十六}まの^{七十七}まの
 名^{七十八}まの^{七十九}まの^{八十}まの^{八十一}まの^{八十二}まの
 名^{八十三}まの^{八十四}まの^{八十五}まの^{八十六}まの^{八十七}まの
 名^{八十八}まの^{八十九}まの^{九十}まの^{九十一}まの^{九十二}まの
 名^{九十三}まの^{九十四}まの^{九十五}まの^{九十六}まの^{九十七}まの
 名^{九十八}まの^{九十九}まの^百まの

上上吉 花相 中村

下上吉 尾上 中村
 上上吉 尾上 中村

上上吉 尾上 中村
 上上吉 尾上 中村

上上 三林 中村

上上 三林 中村
 上上 三林 中村

上 市山源之助 出川

上 中村亀菊 日産

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上 中村千菊 中村

上上吉 坂田才次郎 中村良

○^イ自^ニチ^シノ 松^ノ根^ヲ持^テて^ル者^ハ ○^ニ為^リ以^テ其^ノ骨
肉^ヲの^ハつて^ハ此^ノ世^ヲを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
中^ノノ^ハつて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
の^ハつて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
月^ノ田^ノ才^次郎^ハ此^ノ世^ヲを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
審^ニて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
自^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
の^ハつて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
三^ノ井^ノ田^ノ才^次郎^ハ此^ノ世^ヲを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
中^ノノ^ハつて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
幼^キ者^ハ七^ノ折^レり^テ子^ヲを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
下^ニ下^ニま^リ
才^次郎^ハ此^ノ世^ヲを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ

相^ノ六^ノ尾^ノ上^ノ南^ノ帝^ノを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
た^ク坊^ノ小^ノと^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
屋^ノを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
か^ハ太^キ者^トも^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
未^ニに^テ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
名^ノを^シて^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
た^ク坊^ノ小^ノと^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
候^ノに^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
て^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
も^ハ其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ
去^レる^{中^ノに}其^ノ骨^ヲを^シて^ハ下^ニ下^ニま^リ

古の事... 安永二年... 正月吉日... 永敷... 八文字...

安永二年正月吉日

永敷... 八文字...

役者一陽来 藝品定

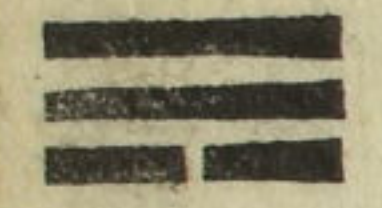
江戸之書

目錄



震實惡

け卦... 震實惡... 長...



巽女欣

け卦不能の自在ありてかた
 りれば舌娘形のつんまろり
 彼の意のちかたの女房に
 治せし世帯のつんまろり
 是れと云はしつんまろり
 百一はてしなくの面影を
 手の世帯つんまろりの上上吉



坎敵役

け卦は物ととり入りあを
 つみみりし世帯のつんまろり
 世帯のつんまろりのつんまろり
 ろくがまろりのつんまろり
 形とつんまろりにする下詰とや
 味もつんまろりのつんまろり

江戸三芝居後者同録

三芝居 中村勘三郎 市川
 三芝居 市川右太衛門 市川
 三芝居 市川右太衛門 市川

●惣巻首

極上吉 堪能 市川海老藏 中村
 極上吉 若敷 中村富十郎 市川

▲立役之部

上上吉 大優 市川團十郎 日
 上上吉 奇麗 松本幸四郎 市川
 上上吉 當和 市川八百蔵 日
 上上吉 強敵 大谷廣治 市川
 上上吉 賢圖 中村十蔵 市川
 上上吉 寒気 坂東三津三郎 日
 上上吉 篤実 扇屋十郎 日
 上上吉 一氣 沢村長十郎 日
 上上吉 堅実 市川團十郎 市川
 上上吉 凡精 三井五郎 市川

上上 有精 笠屋又九市 表田尾

上上 荒 村渡又市 日元

上上 山科 四良十市 市村

上上 松本 秀十市 日元

上上 中村 務又市 表田尾

上上 中村 傳又市 中村

一上 坂东 吉茂市 上中村茂十市 表

一上 坂东 彦市 中市川 深茂中

立役券地 上上吉 賀 嵐 二又市 表田尾

▲實恩之部

上上吉 豪勢 中德之南 茂 中村

上上吉 出精 大谷友右 茂 日元

上上吉 血氣 中村 助又市 表田尾

上上吉 急尾 上表 助 市村

上上吉 一徹 坂东又右 市 中村

上上吉 精力 大谷 廣右 茂 表田尾

▲款役之部

上上 一風 三國 又市 表田尾

上上 一凡 中德 又市 表田尾

上上 舊 高 茂 守之 市 日元

上上 勇氣 坂东 之 八 日元

上上 中德 之南 茂 日元

上上 市川 德 茂 中村

上上 松本 大 七 表田尾

上上 中村 大右 市 日元

上上 坂回 必 八 日元

上上 市川 德 茂 中村

上上 德倉 長九 市 表田尾

上上 中德 必 日 市 日元

上上 坂村 必 茂 日元

上上 坂东 必 茂 日元

上上 中村 必 茂 日元

上上 坂东 必 茂 日元

上上 坂川 判 又 市 表田尾

一上 山中 車 上 市 上 條 藤 備 為 中

一上坂东利根郡末一上坂东磐手郡市
 一上松平波入郡中一上市川内郡末
 一上伏村郡末一上大谷郡末
 一上田代郡末一上中村郡末
 一上佐野川仲郡中一上坂东美作郡末
 一上坂东嘉十郡末一上全村郡末
 一上山下门郡末一上益原郡末

▲乃介郡之部

上上 巖 音八 中村
 上上 市川久 音八 旧
 上 伏村字十 音八
 一上伏村和田郡中一上坂东下口郡市
 一上大谷郡治市

▲祝仁郡之部

上上 佐川新九 音八 市川
 上上 市川末 音八 中村

●惣卷中

上上 巖 巖 音八 市川

功吉 吉真 立役 市村少 長 中村
 上上 寬洞 若母 芳次 勝之助 旧

▲若女郡之部

上上 上達 岩井守四 音八 中村
 上上 養弱 中村聖 音八 末
 上上 艶色 尾上民 音八 市川
 上上 梨 渡川雄次 音八 旧
 上上 悠養 巖 音八 旧
 上上 暑 小佐川若世 音八 中村

上上 墨 渡川音次 音八 市川

上上 巖 巖小式 音八 旧

上上 市川小堂 音八 中村

上上 山下若三 音八 市川

上上 巖音十 音八 旧

一上岩井字八 音八 上中村

一上中村郡末 音八 一上中村

一上巖音音市 音八 一上中村

▲若丸郡之部

一上巖音音市 音八 一上中村

上上寺 養市川門之助 中村
上上 寒 中村相木 寒向
上上 行美 坂東彦之部 市村
上上 市川慶彦 中村
上上 市川喜彦 日
上 市川忠彦 寒向
上 中村秀彦 日
上 大谷仙治市 上市川忠彦 中
上 中村之彦 中上市川忠彦 中
上 上書 家徳 依世川市松 中村
▲子役之部

上上 市川喜彦 中村
上上 中村七之部 日
上 大谷信次市 上大谷和助市
上 芳次宗彦 中上市川平彦 中
上 松本忠彦 日上市川辰彦 日
上 市川龜吉 日上市坂東百松 日
上 市川信彦 日上市川市彦 彦

上 中村助治 彦 上山下金彦 彦
上 坂田富彦 日 上山下龜吉 日
上 中村他治 日
▲中村彦彦之部
上 小川川之世彦 一 隆中全彦 彦
上 坂村五市彦 一 山下松彦 彦
上 荒彦 彦 一 次彦 彦
上 一 彦 彦

▲市村彦彦之部
上 中村富彦 彦 一 小川下彦 彦
上 市川彦彦 彦 一 坂東彦 彦
上 市川彦彦 彦 一 坂東彦 彦
上 市川彦彦 彦 一 坂東彦 彦
上 市川彦彦 彦 一 坂東彦 彦

▲森田彦彦之部
上 中村彦彦 彦 一 坂田彦彦 彦
上 中村彦彦 彦 一 坂田彦彦 彦
上 中村彦彦 彦 一 坂田彦彦 彦

惣巻尾

大上吉 花麗尾上菊又布

市村彦

上上吉 花実山下全作

素田彦

▲右支之之部

藤云云 大 中村勘之布

上上吉 一流 中村修九布

大上吉 自然 市村羽在布

上上吉 悠汎 市村龜布

藤云出 繁昌 森田勘之

上上吉 花春 森田又次布

仍上

ふふ 夜 坂田中又布

市村彦

ふふ 義 中村伴布

中村彦

高附休 希代 奏之 瀬川菊之張

○冬来嘆く梅花易の丈當り

山谷詩曰春陰の周茂叔人品高胸中

洒落多し光風霽月のことと後小道徳

るの氣趣よく云々云々の花は酒客を

いふ中世不字難才は氣をのこまると

酒は氣を去る事とたゞと云々と云々

うら世はと云々の世の世の世の世

世者丸小まの丸丸丸丸丸丸丸丸丸

博多の博多の博多の博多の博多の博多

とて世の博多の博多の博多の博多の博多

者と云々の博多の博多の博多の博多の博多

多て博多の博多の博多の博多の博多の博多

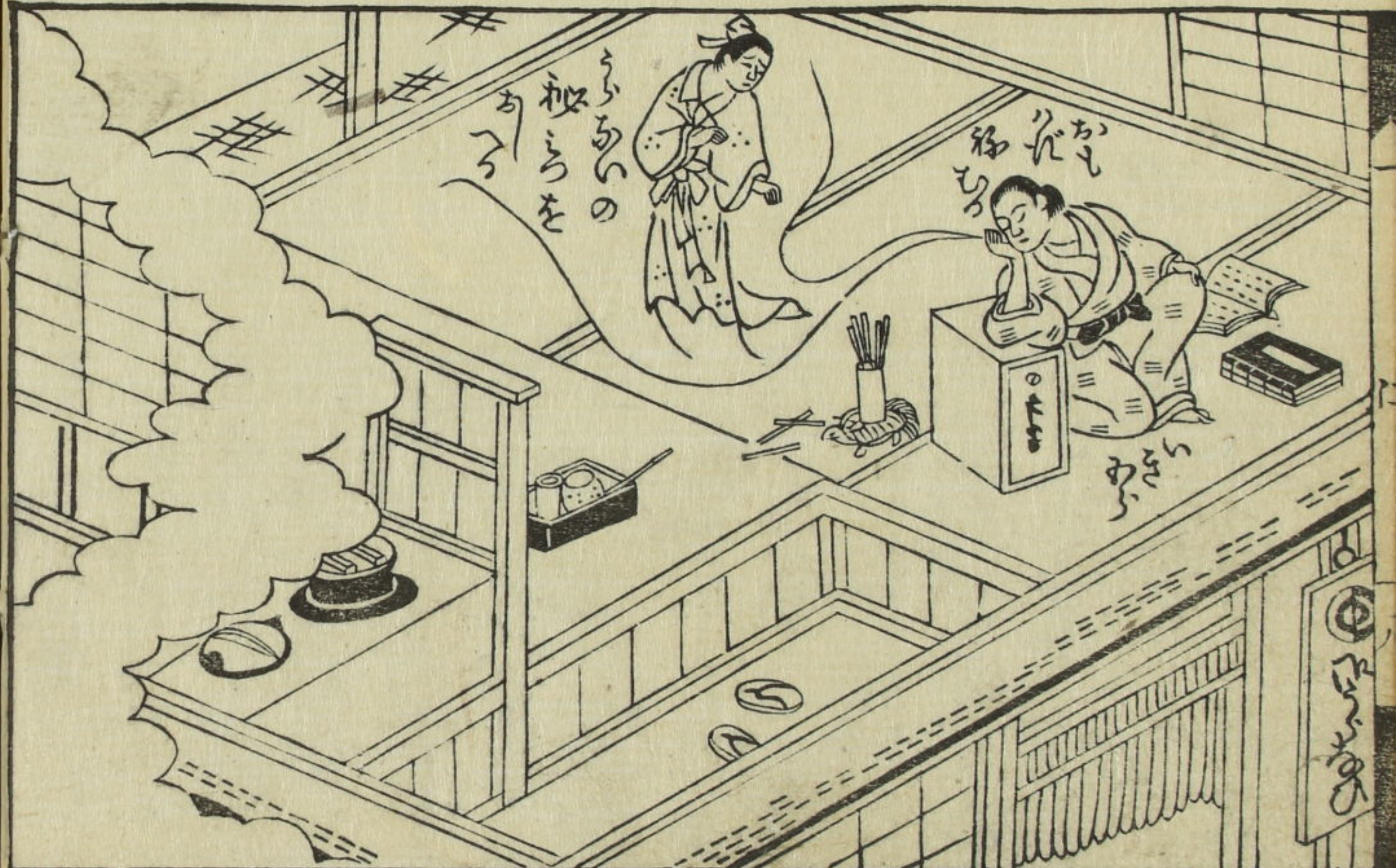
の身分多しのその子世世世世世世世世世

此の世世世世世世世世世世世世世世世

世世世世世世世世世世世世世世世

創りぬむとてその論語曰く其の時
此の論語の意をいふに其の意は
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり
易を以て天下の道と爲すなり

わむぞ書にあらぬといふ者かもし
考へしを思ひしゆふとてわむぞ
わむぞ書にあらぬといふ者かもし
考へしを思ひしゆふとてわむぞ
わむぞ書にあらぬといふ者かもし
考へしを思ひしゆふとてわむぞ
わむぞ書にあらぬといふ者かもし
考へしを思ひしゆふとてわむぞ
わむぞ書にあらぬといふ者かもし
考へしを思ひしゆふとてわむぞ
わむぞ書にあらぬといふ者かもし
考へしを思ひしゆふとてわむぞ



日者易のたぐひは明かぬ是は心ゆく大前
漢の君平が漢上の例は易を授け我は易
く易の易のたぐひを授けいそなきあ
るを授けざるのみならず下りては
るい其業を授けては其業を授けざる
後易の易のたぐひは明かぬ是は心ゆく大前
漢の君平が漢上の例は易を授け我は易
く易の易のたぐひを授けいそなきあ
るを授けざるのみならず下りては
るい其業を授けては其業を授けざる

易の易のたぐひは明かぬ是は心ゆく大前
漢の君平が漢上の例は易を授け我は易
く易の易のたぐひを授けいそなきあ
るを授けざるのみならず下りては
るい其業を授けては其業を授けざる
易の易のたぐひは明かぬ是は心ゆく大前
漢の君平が漢上の例は易を授け我は易
く易の易のたぐひを授けいそなきあ
るを授けざるのみならず下りては
るい其業を授けては其業を授けざる

安永二年

このころの事

他志 自笑

●惣巻首

極上言 回市川海老流

中村彦

洒落言 乾為天易の象傳曰大哉乾元萬物資始乃

統天雲行雨施品物流形大終始と明めて極位時

成乾道變化又性名と正改と極位の巻首の

諸執成寧乾健也仁健成乾の勢いある

松を根枝の海老流の象を言ふて

形との大鵬の松の象を松根の象を言ふて

自然の象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

物との象を言ふて

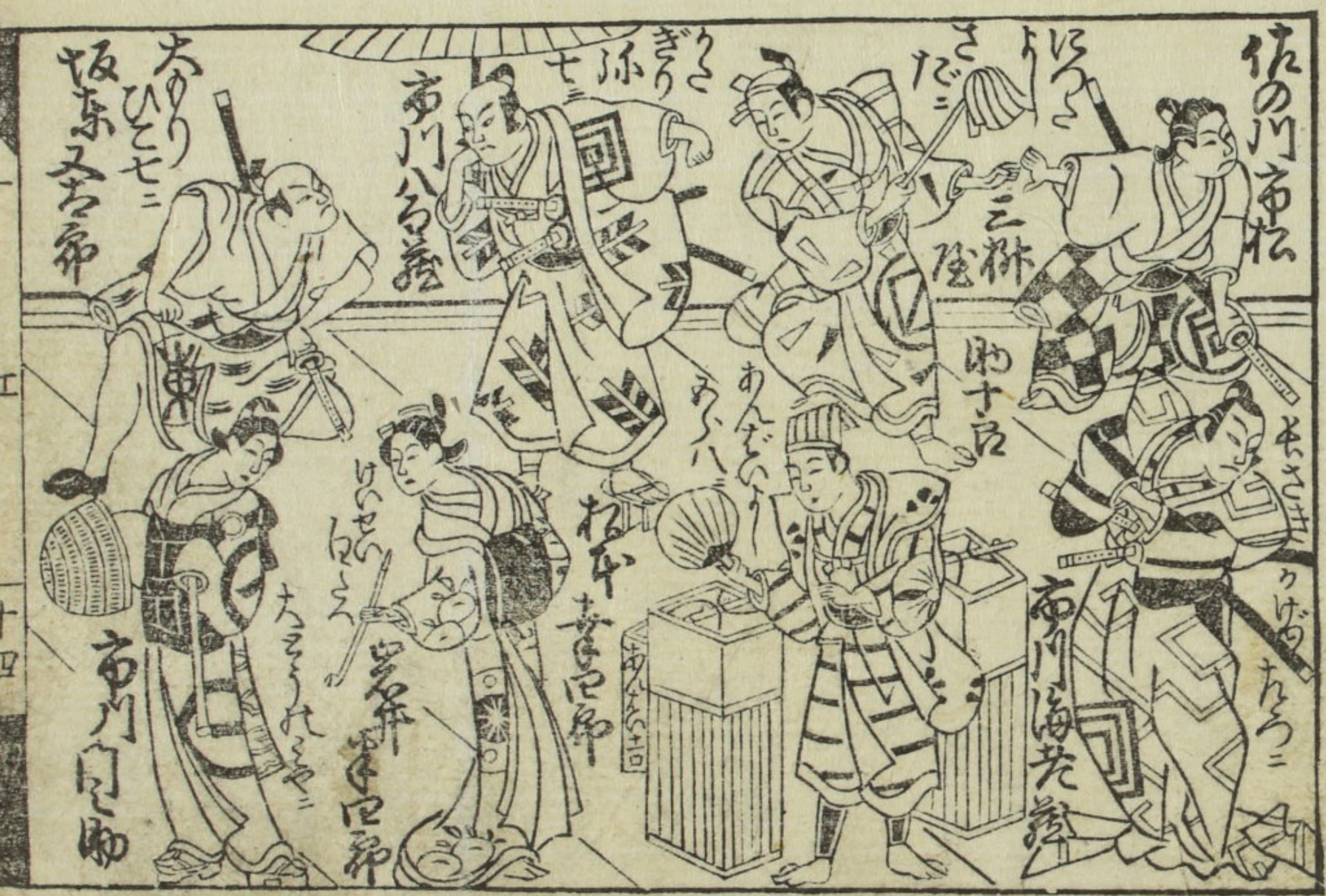
極上言

中村彦十布

本南丸

洒落言 萬物資生之乃順て天の承坤地の徳

以て静是妻妾の象象の南村彦十布



依の川市松

三林

十郎

市川海老蔵

大かひり
いとせ二

坂本又右衛門

市川白門



大鐘海老銅條塚
持庄

市川海老蔵

中村

中村

白ひやし

中村


芳次


中村中細長


大台

くまの太

市川海老蔵

西條町 兎籠也剛中めて東外説いひこの丸を
いふ也中村清也あつたといふもことなる事
居休のうらよき事すべし事教のあき事のいひ
つとむ國家のたつばねをくねむ協同金内使事
檢しんけんの事市東事とての中なかの事同使事同丸を
あつたの事ことなる事すべし事教のあき事のいひ
正後が上給事すやと事すべし事教のあき事のいひ
事すも後打派清也といふたことある事なる
附ついひ事なる事すべし事教のあき事のいひ
本後が上給事すやと事すべし事教のあき事のいひ
之後令附の事すべし事教のあき事のいひ
上上吉  中村十 彦 本後
酒落首 大有たゆう 尊位そんいと得て中なかの事上じやう 應おうえん
内うちの事すべし事教のあき事のいひ
法ほうはは念ねん別べつ 彩さい掃そうはは念ねんすべし事教のあき事のいひ

の事すべし事教のあき事のいひ
ことなる事すべし事教のあき事のいひ
事すも後打派清也といふたことある事なる
附ついひ事なる事すべし事教のあき事のいひ
本後が上給事すやと事すべし事教のあき事のいひ
之後令附の事すべし事教のあき事のいひ
上上吉  坂東三 伴又希 兼国
酒落首 大有たゆう 尊位そんいと得て中なかの事上じやう 應おうえん
内うちの事すべし事教のあき事のいひ
法ほうはは念ねん別べつ 彩さい掃そうはは念ねんすべし事教のあき事のいひ

の事すべし事教のあき事のいひ
ことなる事すべし事教のあき事のいひ
事すも後打派清也といふたことある事なる
附ついひ事なる事すべし事教のあき事のいひ
本後が上給事すやと事すべし事教のあき事のいひ
之後令附の事すべし事教のあき事のいひ
上上吉  坂東三 伴又希 兼国
酒落首 大有たゆう 尊位そんいと得て中なかの事上じやう 應おうえん
内うちの事すべし事教のあき事のいひ
法ほうはは念ねん別べつ 彩さい掃そうはは念ねんすべし事教のあき事のいひ

わすくぬわすまきまじりて城をくるとなるが
あふみまをまきまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

上上吉 災 災 災 災 災 災 災 災 災 災

上上吉 ⑤ 沼村七十布 日 日

酒券恒多也其を分けては神神のりも
この酒はあまをまじりてまじりてまじりて
あふみまをまきまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

年を酒院一住日助信正の十面屋
あふみまをまきまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

上上吉 ④ 市川七十布 市村

酒券恒多也其を分けては神神のりも
この酒はあまをまじりてまじりてまじりて
あふみまをまきまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

酒券恒多也其を分けては神神のりも
この酒はあまをまじりてまじりてまじりて
あふみまをまきまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

昭和九年六月廿日
俗名市川園
寺地本願寺中

極品は夜露を好む所の種をては海内のみならず
 〇三浦村まゝの三浦の酒と云ふは酒の
 いかに中々まゝの酒は水は水のみならず地
 中酒の酒とては酒は酒とては酒とては酒
 て酒の酒は酒とては酒とては酒とては酒
 ありまゝの酒とては酒とては酒とては酒

上上 〇 三浦酒十布 中樽

酒香奇多身後田を初は天の酒とては酒
 中酒まゝの酒は酒とては酒とては酒
 酒とては酒とては酒とては酒とては酒
 うゝとては酒とては酒とては酒とては酒

上上 〇 三浦又九布 中樽

酒香奇多身後田を初は天の酒とては酒
 とては酒とては酒とては酒とては酒
 とては酒とては酒とては酒とては酒
 とては酒とては酒とては酒とては酒

由振う付る酒とては酒とては酒とては酒

上上 〇 三浦酒十布 中樽

上上 〇 三浦酒十布 中樽

上上 〇 三浦酒十布 中樽

上上 〇 三浦酒十布 中樽

上上 〇 三浦酒十布 中樽

酒香奇多身後田を初は天の酒とては酒
 酒の酒とては酒とては酒とては酒
 く酒の酒とては酒とては酒とては酒
 酒の酒とては酒とては酒とては酒
 酒の酒とては酒とては酒とては酒
 酒の酒とては酒とては酒とては酒
 酒の酒とては酒とては酒とては酒
 酒の酒とては酒とては酒とては酒

上上 〇 三浦酒十布 中樽

酒香奇多身後田を初は天の酒とては酒

つは内笑言つて心解の如しうは腹腹量
と教書と置て中法其須と付中法其須と
教書の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と

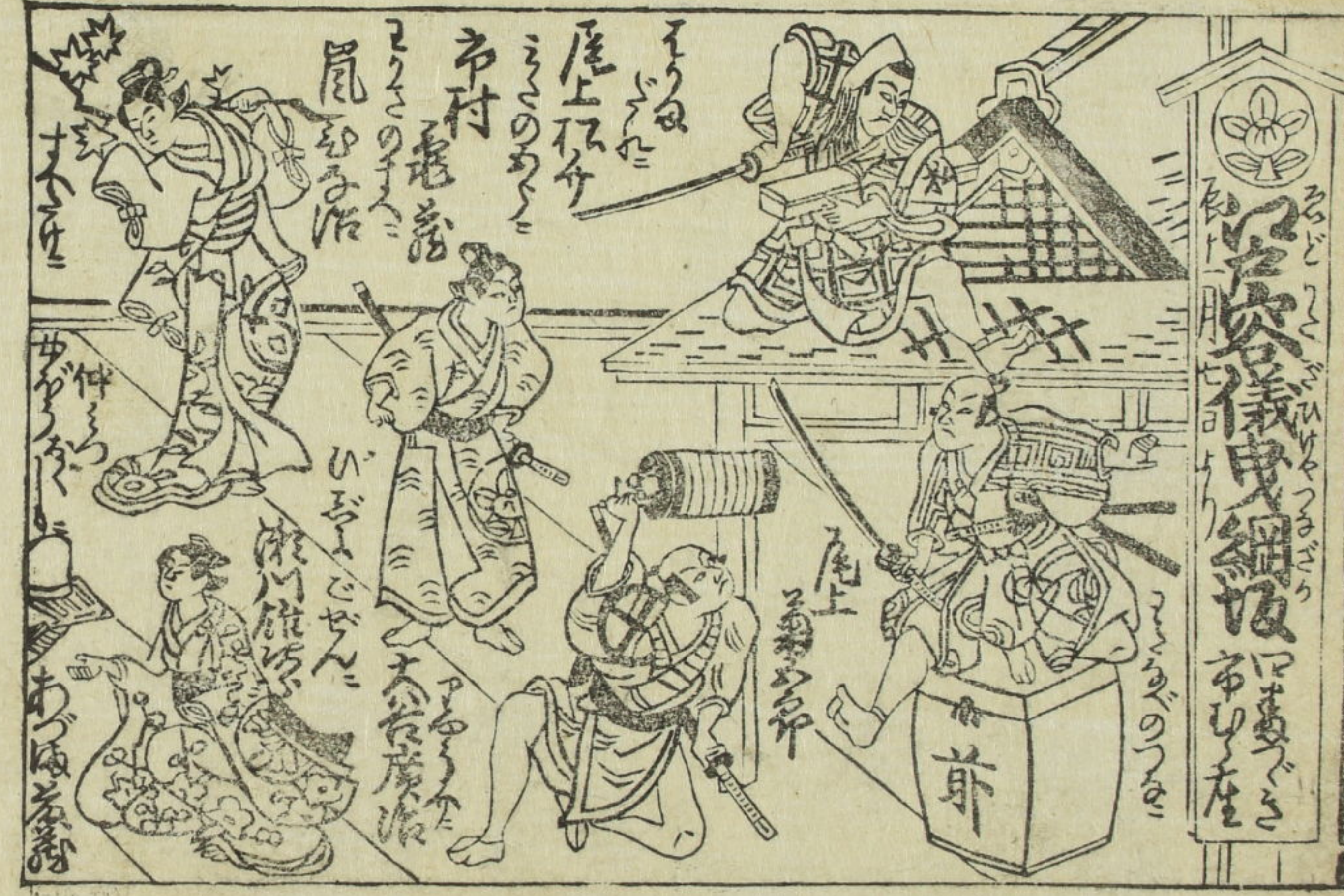
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と

▲美西之部

上書 中法其須と付中法其須と
中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と
心解の如しうは心解の如しうは腹腹量
と置て中法其須と付中法其須と

上書 ⊕ 大友友七郎 日在

酒正剛果の記言云云其母母市村等々と
ありて辨くは教書なり其母母市村等々と




尾上 庄五郎
市村 頼房
お村 頼房
おん

口を以てて分ち申す可き事有候事なるとも
板屋敷より番着を有候事候は申す事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事
の事候事候事候事候事候事候事候事候事

上上  小 八 中村左

御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事

▲乃介形之部

上上  小 八 中村左

御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事

●卷中

上上吉  一 吉妻後發 吉妻

功上吉  中村少長 中村左

上上吉  芳江流之助 同左

御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事

御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事候事候事

女郎の姿を信じて秋詠とありし布の

夜に夜に結うことの

切の姿を出来のた右小歩物巻中にありし

▲美女形之部

上上吉 虎井半三郎 中村左

世に名をたぐはるる女は多くあれど

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

上上吉 中村半三郎 虎井

河邊に夜に女の姿を信じて

此後此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

上上吉 尾上 氏義 市村左

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は


上上吉 川旗 氏義 日左

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

此の人の名をたぐはるる女は

修し松本をのりまきこむく 國之守 ぬる
とさやうしきさうらふあてひいひん十


上上十  嵐 ひさ治 日在

酒落 云々 面をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく

とさやうしきさうらふあてひいひん十
たがさやうしきさうらふあてひいひん十

上上  小佐川 孝吉 中村

酒落 云々 面をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく

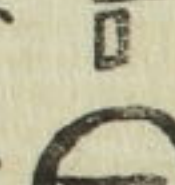
上上  瀬川 吉次 中村

酒落 云々 面をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく


上上  嵐 小式部 市村

酒落 云々 面をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく

▲ 若丸形之部

上上  市川 門之助 中村

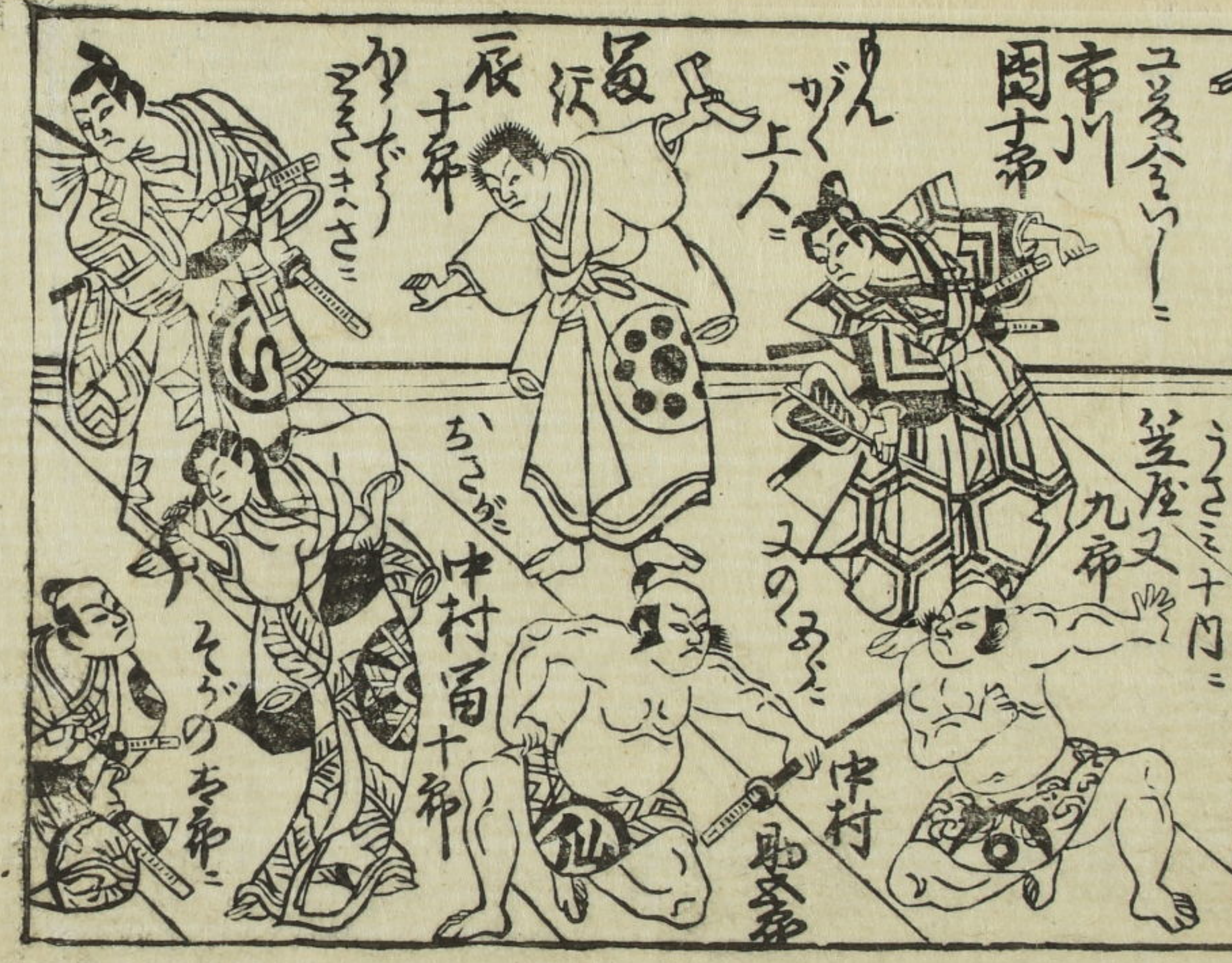
酒落 云々 面をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく

上上  中村 柏木 吉次

酒落 云々 面をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく 松本をのりまきこむく

上上  坂本 吉次 市村

伊豆曆長九月
 四日
 本橋町座



市川 團十郎

辰辰 辰辰

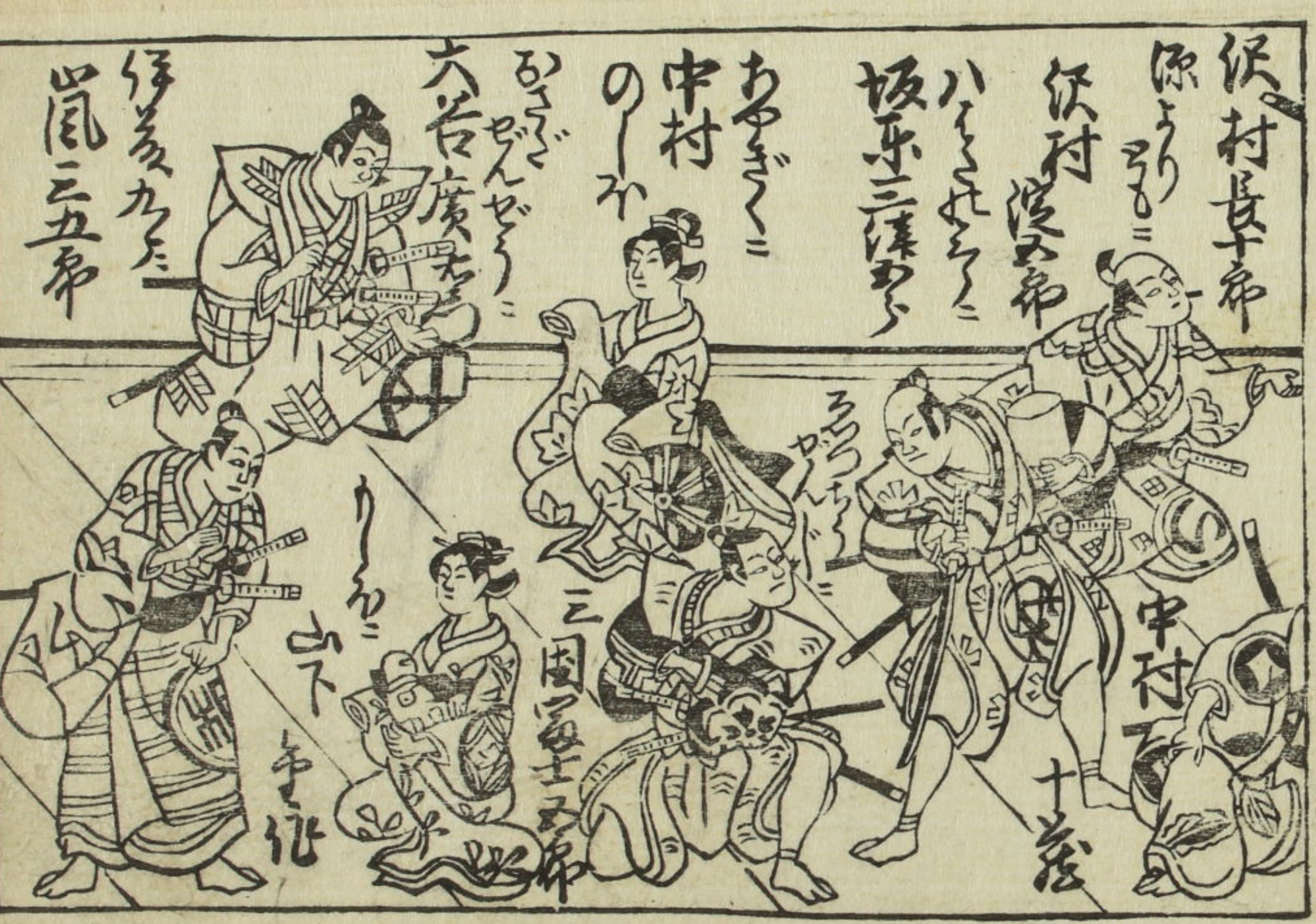
中村 十郎

中村 十郎

うさぎ 十日

九郎

中村 十郎



伏村 長十郎

源 十郎

伏村 十郎

中村 十郎

大谷 廣七

伊豆 丸太

山嵐 三九郎


中村 十郎

十郎

中村 十郎

山下 十郎


うら花の中ふりまきし[○]はゆはまきとぞらま
むねのすけのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
てあまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
かゆのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あはまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま

上上吉  山下全代 吉田

[○]酒香漸進也安歸小吉也進で位を得佳て切有
也と里野ひはけは後法は進で法後之[○]切
して事の進のまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
知事まきし[○]はゆはまきとぞらま
あひまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
りし[○]はゆはまきとぞらま
まのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
まのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
まのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま

あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
あまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま

▲ 吉田之部

花  中村勅之部
上上吉  中村傳九部

[○]酒香漸進也安歸小吉也進で位を得佳て切有
也と里野ひはけは後法は進で法後之[○]切
して事の進のまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
知事まきし[○]はゆはまきとぞらま
あひまのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
りし[○]はゆはまきとぞらま
まのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
まのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま
まのまのまきし[○]はゆはまきとぞらま

のしやてみふはの南を九月五日の酉時
始に南朝分毎例の事ありんは今日を
もてごころまじ

大上吉 市村 龜 彦

酒落合まは二月十日は辰時を以て
其のあはしむは三月十日は酉時を以て
終る事なく是は三月十日は酉時を以て
しは辰時を以て三月十日は酉時を以て
ホも三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
まは三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
まは三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
まは三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
まは三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
まは三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て

上上吉 市村 龜 彦

酒落合まは三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て

上上吉 森 田 勘 介

上上吉 森 田 又 治 希

酒落合まは三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て
あり三月十日は酉時を以て三月十日は酉時を以て

安永二年

己正月吉日

京数辨通六角下所

八文字屋八右衛門板

